

しなののうた

山腹の出湯に浸り憩えれば雑念去りて心解けゆく

l.MI

杉田小百合

しなののうた

湯煙に包まれ湯浴みの老いの身は灰かに紅の色して弾む

杉田小百合



しなののうた

幾つかの露天の風呂を巡りたる浅間おろしの突き刺す寒さ

l.MI

杉田小百合

しなののうた

同室の釧路の女（ひと）は趣味仲間一期一会の一夜を語る

杉田小百合



しなののうた

夜半すぎて彼方を見れば街明かりいよよ深くに街は鎮まる

l.MI

杉田小百合